

## Antiphospholipid Antibodies in Patients with Cutaneous Polyarteritis Nodosa and Livedo Vasculopathy: An Initial Report

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 若林, 奈津子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10470/30818">http://hdl.handle.net/10470/30818</a>

## 主論文の要旨

Antiphospholipid Antibodies in Patients with Cutaneous Polyarteritis Nodosa and Livedo Vasculopathy: An Initial Report

皮膚型結節性多発動脈炎とリベド血管症患者における抗リン脂質抗体(第一報)  
東京女子医科大学皮膚科学教室  
(主任：川島 眞教授)

若林 奈津子

東京女子医科大学雑誌 第83巻 第2号 86頁～94頁（平成25年4月25日発行）に掲載

### 【要 旨】

病理組織学的には皮膚型結節性多発動脈炎(CPN)では小動脈炎を、リベド血管症(LV)や抗リン脂質抗体症候群(APS)では血栓像を呈するという違いがあるが、CPN、LV、APSはリベド(網状皮斑)を呈するという共通の臨床像を有する。近年、CPNにおいて抗リン脂質(aPL)抗体の1つである抗ホスファチジルセリン・プロトロンビン複合体(anti-PS/PT) IgM抗体が高率に検出され、発症への関与が示唆されている。今回我々はCPNおよびLVにおけるaPL抗体の有無などについて検討した。CPN 24例中10例、LV 11例中5例でなんらかのaPL抗体を検出し、CPNでは特にanti-PS/PT IgM抗体の陽性例が多く、健常対照群と比較して( $p=0.06$ )高値を示す傾向がみられた。一方、anti-PS/PT IgM抗体はLVでも27%に陽性で、1例では高値を示したことから、CPNとLVの一部の症例では基盤に共通の因子の存在を疑った。よって、CPNの発症機転として、LVでみられるようなaPL抗体が関与した血栓形成が血管内皮障害をきたした結果、最終的に血管炎に発展することが推察され、CPNが全身性結節性多発動脈炎(PAN)からは独立したclinical entityである可能性を考えた。